

【3 学期がスタートして】

今月の 15 日（水）にスタートした 3 学期も既に 2 週間が経過しました。この間、まずは初日に全年の生徒が実力テストに挑みました。特に 3 年生は自分の進路に関わることから、真剣な姿勢で頑張っていたようです。もう復習は終わっているでしょうが、入試本番の季節を迎えています。健康面に留意し、各々が目標を達成するために努力し続けることを心から願っています。先生方や地域の方々はもちろんですが、それ以上に家族の方々は応援しています。頑張ってください。

翌週、23 日（水）には石積先生が授業者となり、県英語教育研究会主催の公開授業と研究会が開催されています。県内各地から多くの先生方が来校しました。本校の先生方も参観し、たくさん学ぶことができました。続けて、24 日（金）には定例の朝のあいさつ運動と放課後には英語検定も行われました。

また、町主催の行事ですが、18 日（土）には学校保健委員会研究発表大会、25 日（土）には学校運営協議会推進シンポジウムが行われ、お忙しい中、保護者の方々にも多数参加いただきました。誠にありがとうございました。

このように、3 学期になってから既に多くの行事が行われています。よく「1 月は行く、2 月は逃げる、3 月は去る」と例えられますが、毎年その通りであると実感しているのは私だけではないはずです。『1 日 1 日を無駄にすることなく、やるべきことをしっかりとやり遂げ、2024（令和 6）年度を締めくくり、新年度を迎えたい』そう思ってこれを書いています。ぜひ、関係するすべての方でそんな 3 学期をつくりあげたいものです。どうぞよろしくお願いいたします。

始業式での校長の話

新しい年が始まり、ちょうど半月になります。この冬休み、大きな事故等がなく、まずはこうして今日を迎えられたことを、皆で喜び合いたいと思います。

今日が紫波第三中学校の 2025 年（令和 7 年）スタートの日です。一人ひとりが気持ちを新たに、仲間とともに学校生活を充実させ、有意義な 3 学期にしてほしいと思います。

さて、みなさんも覚えているでしょうが、去年は、1 月 1 日に石川県能登地方を震源とする大きな地震が発生し、周囲に甚大な被害をもたらしました。あれからもう 1 年が過ぎようとしていますが、まだ復興どころか、手つかずの土地がたくさんあります。能登半島という奥まった土地のせいで、被災地に入れる業者が少なく、平地が少ないので住宅整備用の土地の確保に難航していることや、片道通行の場所が多く、復興に欠かせない資材を効率的に運搬することが難しいことなどが大きな要因になっているようです。今、私たちに直接できる

ことはないかもしれませんが、少なくとも、私たちはこの現状を理解し、現地に思いを馳せることを絶対に忘れてはいけません。みなさんが生まれる前のことですが、今年 17 日は阪神淡路大震災からちょうど 30 年目にあたる日です。また、私たちの住む岩手県では東日本大震災が起きています。今年の 3 月 11 日は 14 年目にあたる日になります。

今は、日本、いや、世界各地でどんな災難がおきてもおかしくない時代を迎えています。一昨日は九州地方で震度 5 弱の地震がありました。ロスの山火事も大きな被害をもたらしています。また、闇バイトやオレオレ詐欺なども一つの災難と捉えることができます。このような中をどうやって生きていくのか… 実は、中学校の学習にはこのような時代を生き抜くためのヒントがたくさん隠されています。私は、みなさんには、ぜひ、積極的な姿勢で授業に臨み、よく考え、よりよく生きるために行動できる力を身につけてほしいと強く思っています。

3 学期は一番短い学期ですが、非常に大切な学期です。それは1 年間の総仕上げと 4 月からの準備をする学期になるからです。キーワードは「仕上げ」と「準備」です。ぜひしっかりやり遂げてください。

私の一番の願いは紫波三中のみんなが揃って、卒業式、修了式を迎えることです。そのためには健康に留意し、事故等にあわないように気を付けて生活することが大事です。インフルエンザも学校が始まると流行する傾向があります。充分に気をつけてください。皆で、是非、いい 3 学期にしましょう。



始業式で真剣に話を聞く生徒



各学年代表と生徒会代表による「3 学期の決意」発表

【裕子先生ありがとうございました】

産前産後休暇をとっていた菊地千里先生の補充に入っていたいた佐々木裕子先生が今年 22 日（水）をもって本校を去られることになりました。約 4 か月間、保健関係の業務をはじめ、何より生徒の健康面に関する様々な仕事を滞りなくやっていただきました。同日放課後には感謝の意を込めて離任式を行いました。裕子先生には、これからも三中を見守っていただきつつ、健康に留意され、お過ごしください。ありがとうございました。

